

プログラム例2 地域の関心ごとにフォーカスしていく

「じぶんごと化」を促すにあたっては、人口に関するデータだけではなく、「地域の関心ごと」に関するデータなどを提示することで、現状を的確に認識し、自主性を生み出す方法も考えられます。

その際、「①地域の資源に着目してそれらの魅力を活かす方向で、あるべき姿を含めて前向きに検討する方法」と「②課題や将来の不安を正しく認識することで、地域住民同士で危機感を持って取り組まねばならないことを共有する方法」の2つの方法があります。

いずれにしても、きちんと現実を目を向けて地に足の着いた取組を検討し、実施していくとする機運を作り出すことが重要です。

データ例① 資源点検マップの作成

地域の状況を捉えるには、数値のデータを見るのみならず、現状を自身の目で確かめることと同じものを見て周りの人と情報を共有することが重要です。

ワークショップとして子供から高齢者まで多様な地域住民が集まり、一緒に歩きながら地域を点検して、「地域の資源と思うもの」と「課題と思うもの」について、話をしながら写真撮影しておきます。

写真に見出しをつけて大きな地図に貼り込みながら、地域の資源と課題について整理しつつ、地域資源の活用アイデアや課題の克服方法などについて話し合いながら書き込んでいく活動を通して、地域の現状を正しく把握し、共有します。

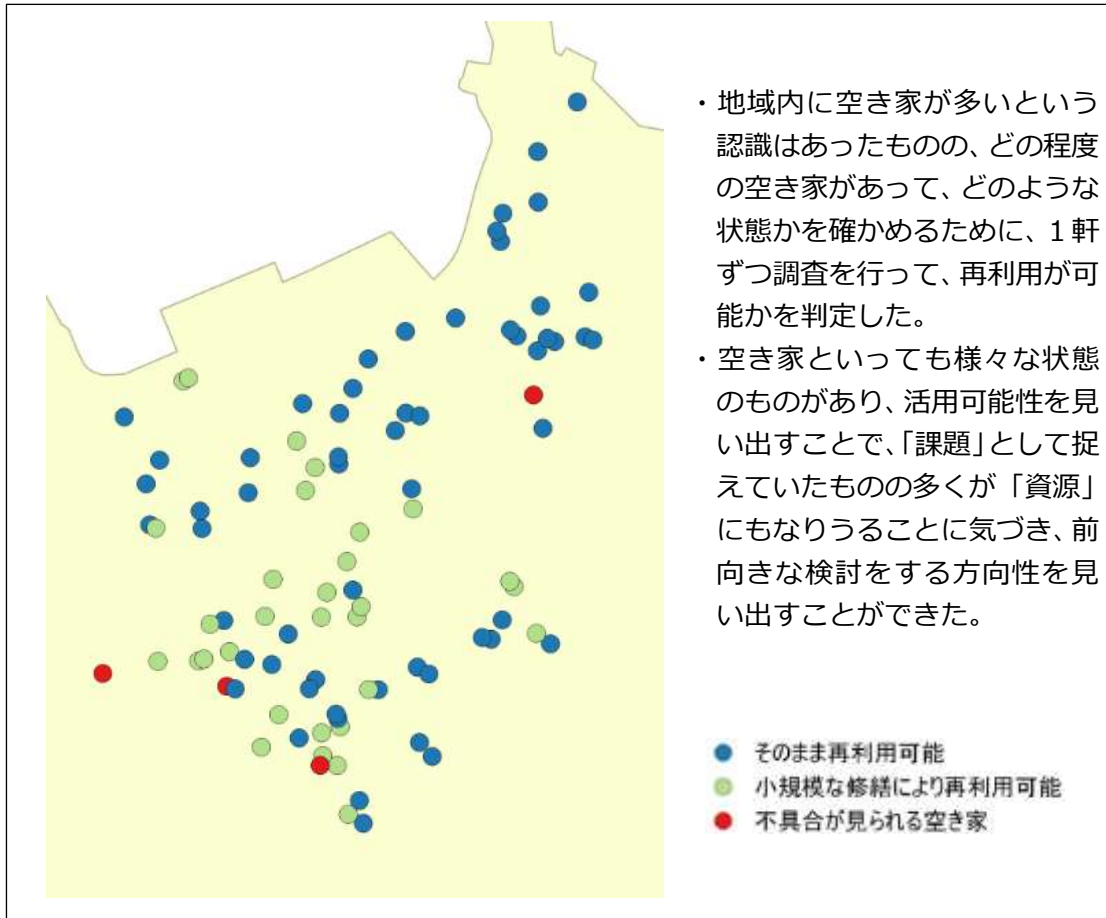
■ 地域内の活用すべき資源、克服すべき課題の点検、マップの作成



データ例② 空き家の分布状況の整理

現在、多くの市町村において空き家調査が行われています。その調査結果を見やすく整理したり、また地区内の空き家の分布状況等を整理したりすることにより、空き家の多さを実感してもらうことで、活用に向けた行動への転換につながると考えられます。

■ 空き家の分布状況の把握



※ 空き家に関する全国的なデータとして、総務省統計局による「住宅・土地統計調査」が5年おきに行われていますが、全数調査ではなく約 1/10 の地域しか把握していないため、町村部のデータは限られていますので、活用する際はご注意ください。詳細は総務省統計局HP (<http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/index.htm>) をご参照ください。

プログラム例3 地域住民のニーズと意識を正しく把握する

地域の実態として、小さな拠点づくり・地域運営組織づくりに対する地域住民のニーズや生活に対する満足度、事業への協力意向など、地域住民の思いも的確に把握することが重要です。

従来の会合に加えて、多くの人に参加して意見を言える機会としてワークショップなどの開催も有効ですが、会議に参加しない・できない地域住民の声を幅広く集めて、集計・分析し、地域住民と共有することで、危機感や行動に対する意識を高めることができます。

留意事項

- 小さな拠点づくり・地域運営組織づくりに関しては、多くの住民の関与が求められることから、会議以外にもアンケートにより、幅広い地域住民の思いを把握することが重要となります。その際、「世帯に1票」のアンケートでは「男性・年長者」による回答が多くなってしまふことから、「〇歳以上全員に1票」として実施することが重要です。
- 得られた分析結果について、「総数」として把握するだけでなく、「年代別、地域別、性別」などの属性ごとに集計することで、各属性の人々の困りごとや協力意向などが結果として見えることがあり、今後の取組に大きく活かすことができます。ただし、1つの属性の母数が極端に少なくなると、回答した住民が特定できてしまう恐れもあるため、人口の少ない地区では、集計単位や公開の方法について、十分に留意する必要があります。

取組例①：アンケートの属性別分析（年齢別・性別など）

アンケートの対象を「〇歳以上全員」として実施することで、集計・分析結果を「総数」として把握するだけでなく、「年代別、地域別、性別」などの属性ごとに集計できることから、各属性が持つ課題や取組に対する協力意向などを細かく把握することができます。

また、結果について広報誌などを配って説明するのが一般的ですが、「年代別、地域別、性別」ごとに集まって、結果を見ながら「どのように取り組んでいくか」を話し合うことで、各人の「可能な形・範囲での協力」を促すことにつながると期待されます。

■ 「何があると拠点に足を運ぶと思いますか？（複数回答）」



地域全体では、
○店舗
○飲食店
○農産物などの直売所
が望まれている。

年代別に見てみると・・・



50歳代以下は飲食店を望む人が多く、60歳代以上は直売所を選ぶ人が多い。
飲食店と直売所のどちらを設置するによって、拠点に足を運ぶ人数が変わってくる可能性がある。

取組例②：現在の取組の的確な評価

市町村が「総合計画」を策定する際、既存の施策について評価を行う方法として、住民アンケートが実施されています。このアンケート結果が地区別で集計されていると、地区の課題を見つめるのに適しています。

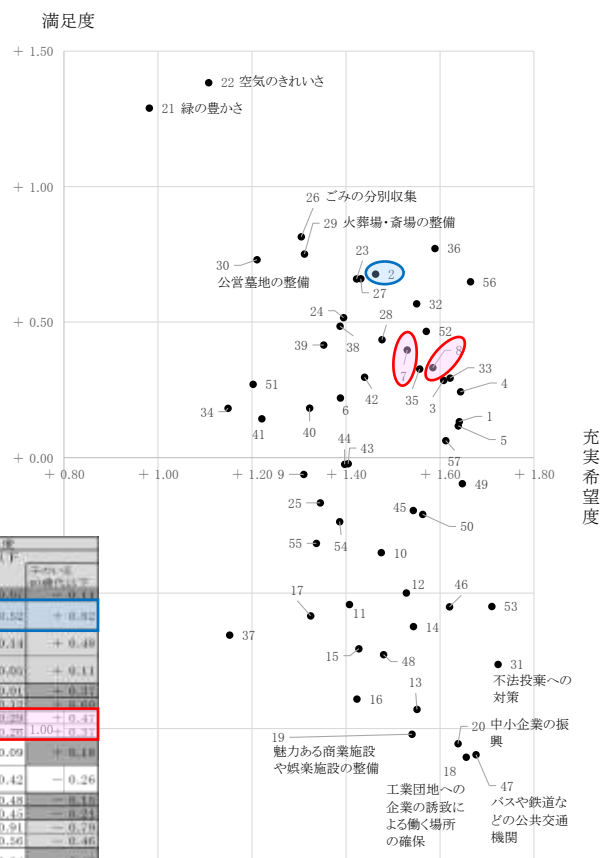
近年よく見られるのは、「満足度」と「充実希望度（または重要度）」の2つの視点から評価を行っている例ですが、これらから当該地区の住民のデータだけを抽出し、分析することで、有効なデータを得ることができます。

なお、当該アンケートは、高齢化が進みつつある中で、年齢が若いほど回答率が低くなる傾向があることから、総数ではなく、年齢別で分析するとよいと考えられます。また、施策にはそれぞれ「ターゲットとなる住民層」がいるものがあるので、子育て支援策や教育についてはその親の層、高齢者福祉については高齢者の層、というかたちに分けてみることで、その施策の有効性と充実の必要性がより具体的に見えてきます。

■ 「各々の施策に対する満足度と充実希望度はどのくらいですか。」

※「充実希望度」=（「充実してほしい」×2点+「やや充実してほしい」×1点-「あまり充実なくてよい」×1点-「充実なくてよい」×2点）÷当該4つの選択肢回答者総数

※「満足度」=（「満足している」×2点+「まあ満足している」×1点-「やや不満である」×1点-「不満である」×2点）÷当該4つの選択肢回答者総数



	若年者層		中高年齢層		高齢者層	
	20歳以上	64歳以下	20歳以上	64歳以下	65歳以上	74歳以下
1 高齢者の医療機関の整備・救急医療体制など	+1.65	+1.63	+1.67	+1.44	+0.40	+0.32
2 介護サービス（施設型・在宅型・生活習慣指導など）	+1.49	+1.50	+1.48	+0.88	+0.52	+0.32
3 高齢者への福祉サービス（生きがいづくり、住宅福祉サービスなど）	+1.61	+1.60	+1.68	+0.48	+0.11	+0.49
4 障がい者への福祉サービス（社会参加促進や生活支援、デイサービス、ショートステイ、サポートなど）	+1.64	+1.65	+1.65	+0.92	+0.05	+0.11
5 介護相談サービス	+1.58	+1.67	+1.67	+0.27	-0.01	+0.11
6 介護施設・在宅型介護施設への福祉施策	+1.47	+1.36	+1.37	+0.21	+0.19	+0.36
7 保育園の整備や拡充内容	+1.28	+1.31	+1.62	+0.65	+0.29	+0.31
8 幼稚園・保育園	+1.63	+1.86	+1.65	+0.48	+0.27	+0.31
9 就業支援促進したワーキングプラス（都市と農村の交流）	+1.39	+1.26	+1.32	-0.01	-0.69	+0.19
10 観光施設の整備、観光イベント、観光PR、観光資源の活用など	+1.60	+1.46	+1.68	-0.23	-0.42	-0.26
11 観光力のある観光地の整備、観光地の基盤整備	+1.44	+1.38	+1.39	-0.67	-0.48	-0.17
12 特色ある産業の育成、地域特産品の生産強化など	+1.56	+1.51	+1.65	-0.92	-0.45	-0.44
13 農業の振興や産地拡大に配慮した地域農業	+1.69	+1.52	+1.62	-0.96	-0.91	-0.79
14 農産物の産地拡大に配慮した地域農業	+1.69	+1.51	+1.59	-0.71	-0.56	-0.46
15 地元産物の活用促進、製材・加工技術の向上、林道や作業道の整備などの林業振興	+1.89	+1.45	+1.68	-0.89	-0.64	-0.40
16 林業の新しい学習や体験	+1.45	+1.40	+1.31	-1.09	-0.80	-0.85
17 畜産や水産業の振興	+1.94	+1.31	+1.42	-0.67	-0.53	-0.11
18 工場跡地への企業の誘致による働く場所の確保	+1.77	+1.39	+1.61	-1.09	-1.11	-1.02

高齢者福祉について高齢者は満足度が高いが、子育て支援・教育について子育て層の満足度は低い ⇒子育て支援・教育の取組を行う必要がある